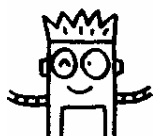


とろいせき 登呂遺跡は、どんな遺跡なの



静岡市にある、^{やよいじだい}弥生時代を代表する、米づくりのむらのあとだよ。

集落や水田のあとが見つかった

静岡市登呂にある登呂遺跡は、1943年に発見された、弥生時代の終わりごろのむらのあとです。1947年から^{はくつちょうさ}発掘調査が行われ、12個の住居のあとや、2個の^{たかゆかしきそうこ}高床式倉庫のあと、たくさんの道具、水田や森林のあとが見つかりました。

住居・倉庫・道具のようす

住居は小判形で、^{しっち}湿地にあるため、たてあなをほらず、地面に4本の柱を立て、周りに盛り土をしています。高床式倉庫の柱やはしごには、丸い「ねずみ返し」がはめこんであります。また、たくさんの土器、石・^{ほね}骨製のかり・漁の道具、木製の農具（くわ・田げたなど）・食器類・^{はたあ}機織り具・発火器、まが玉、^{そうしんぐ}青銅製の装身具、^{けんこうこつ}しかの肩甲骨を使った「うらない」の道具などが出てきました。

水田のようす

集落の東側には、あぜ道で区切られた、40面ほどの水田が広がり、りっぱな給水・^{はいすいよう}排水用の水路があります。あぜ道や水路の周りは、数万本のくいと、数万枚の板を使って、土がくずれないようにしてあります。

復元された集落・水田と、博物館がある

登呂遺跡は、紀元200年ごろの米づくりのむらのようすを示す^{きちょう}貴重な遺跡として、国の特別史跡に指定されました。今は、遺跡公園として、当時の集落や水田が復元されています。近くの静岡市立登呂博物館には、くらしの道具、祭りの道具などが展示されています。